

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44-1		
自己評価作成日	令和5年1月14日	評価結果市町村受理日	令和5年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者が、住み慣れた地域で最後までその方らしい暮らしが出来るように、スタッフ一丸となって取り組んでいます。特に入所者が楽しみにされている食事には、食材の選び方から気を配り手作りで提供しており、美味しいと喜んで頂いています。このホームで最後まで、暮らせて良かったと思ってくれるように、これからもスタッフ全員で頑張りたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者の希望を聞きながら献立を作り、家族や地域住民からの野菜の差し入れやスーパーからの買い出し、ネット購入を利用して旬の食材を利用した手作りに拘った食事の提供を行っている。また、行食事では職員が彩りなどに配慮した豪華弁当を作って提供している。刺身や寿司のテイクアウトやラーメンや焼きそばを作るなど、変化のあるメニューを提供して楽しんで貰っている。
2. 重度化や終末期の指針に基づき、本人や家族の希望に応じて看取りを行っている。コロナ禍においても、感染防止を図り家族の宿泊のもと最期まで一緒に過ごす時間を設けて共に看取りを行っている。
3. 毎日の引継ぎや連絡帳による情報共有に加え、全職員・各ユニット・責任者(管理者と主任)の3つのグループLINEを設定して、日常の情報共有をリアルタイムで行い利用者の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えて提出したものの中から選び、理念を共有しながら実践している。	現在の理念は、令和3年に職員の意見を集約したものを主任と管理者で話し合って見直しを行い策定している。理念は玄関に掲示し、連絡帳や各ユニットのファイルの最初のページに綴り職員への浸透を図っている。また、管理者は日頃から理念に基づくケアの実践の意義を職員に伝えることで、理念の共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナの為、地域の方々に慰問・交流は出来ない状態である。	町内会に加入していないが、事業所協力金を地区へ納入している。昔話の読み聞かせ、日本舞踊、フラダンスなどのボランティアを受入れていたが、コロナ禍で自粛している。周囲は事業所や店舗が多く民家が離れており、またコロナ禍で地域住民との交流も希薄になっているが、住民から野菜の差し入れなどの関係は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の機会が少なく、ふれあいが出来ない状態である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナの為運営推進会議が出来ない状態である。	利用者代表・家族代表・町保健福祉課職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域代表を委員としている。令和2年8月に会議を開催した以降は、コロナ禍で開催していない。また、委員に資料を送付する書面での開催も実施していない。	開催が困難な状況においても書面開催などが望まれる。また、書面開催では委員の意見を求め、事業所の回答や見解を付して全ての委員に送付するなど双方向の会議になるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	勉強会へ参加して情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	町担当者が運営推進会議委員になっている。管理者は疑問点等があれば、電話や役場を訪問して指導・助言を受けている。問題を抱える利用者の入居に当たっては役場が中心になりケア会議を開催し課題の解決を図り、事業所では町からの依頼により虐待ケースの入居を受入れるなど互いに協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会が出来ないので、資料を配りよく理解し職員同士声掛け合っって取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、ユニット主任と管理者で構成する身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回を開催している。コロナ禍で法人より会議や集合研修の実施を禁止されているため、年2回研修資料を職員全員に配布することで、身体拘束廃止の研修に代えている。	委員会や研修を実施しているが、研修記録が作成されていないので、資料の配布日及び内容等の記録が望まれる。また、資料を配布するだけでなくレポートの提出や自己チェックの実施など職員の参加が確認できる研修を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意し合い、ニュースなど話題を提供し、虐待が見過ごされないよう注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など参加したら、必ず職員に伝達し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安に対し、納得するまで話し合い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や不満は、すぐに話し合いの場を設け運営に反映させている。	利用者の意見は、日頃の会話を通して把握するようしており、利用者からも意見や要望を申し出てくることが多い。家族の意見は面会時や職員の方から近況報告など電話を入れた時に伺うようにしている。出された意見は運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より、自由な発想で意見や提案を行えるようにしている。	管理者は、利用者と接している職員の意見や気づきを大切に、出された意見は主任と話し合いのうえ運営やケアに取り入れるようにしている。また、年2回個別面談を行っており、その折に意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の自己評価を基に、面談を行ってその状況を報告し、情報を共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の能力や状況に応じた研修に参加できるような仕組みを整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流に積極的に参加するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を把握する事に努め、きちんと話せる場を設け、傾聴して安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が不安に思っている事を遠慮なく話して頂くよう、必ず声掛けし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況と家族の要望を見極め、話し合いを取り入れ、安心して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望など把握し、自立できるよう支援し、家庭的な雰囲気大切に、共有できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状況、体調の変化など、家族に連絡を取り、共に支えていけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が交流してきた方、大切な場所を把握し、関係が途切れないよう支援に努めている。	馴染みの美容室やラーメン店等への外出等を支援してきたが、コロナ禍で自粛している。友人知人の面会も自粛しているため、家族や親戚等への手紙の返信を行い、年4回の事業所便りの発行や利用者の写真と担当職員の近況報告を毎月家族へ送付し、関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の状況、性格を把握し、孤立せず不安なく生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、遠慮なく気さくに相談して頂けることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握に努め、困難な場合は本人の立場に立ち検討している。	職員が利用者との会話の中から思いや意向を汲み取るようにしている。特に入浴介助時に、利用者の話に耳を傾け本音や思いを把握し、引継ぎや連絡帳に記載して職員間で情報共有を図っている。会話が困難な利用者の思いは、表情や行動から推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より、これまでの暮らし方、生活環境を聞き、過ごしやすいように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子をよく観察し、職員同士情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状をよく観察し家族からの要望を伺い、意見を出し合って現状に即した介護計画を作成している。	会議開催が禁止されているため、居室担当職員が他の職員の意見を収集した情報を主任が精査し、管理者(ケアマネ)がユニット主任と検討してケアプランを作成している。また、モニタリングは、居室担当職員が現場で話し合った内容を管理者がモニタリングシートにまとめ、主任たちと協議して実施し、原則6か月でケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたことをケース記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに応じ、本人や家族の生活状況に合わせ、柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為親しい友人の方々に気軽に来ていただけない状況で、安全に暮らせるようスタッフ一同支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にスタッフと同行か家族が同行し受診している。移動が難しい場合は往診で対応している。	入居時に、本人・家族等の希望を確認し、殆どの利用者がかかりつけ医を継続受診している。月1回往診を行うかかりつけ医もあるが、他の医療機関へは、事業所が通院支援を行っている。家族には電話で受診結果を報告し、職員は結果報告・連絡帳で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の生活の中で気づいたことは看護師に伝え、処置をして頂いたり、受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往歴の情報や、今服薬している薬情報を提供し、退院時は診療情報提供書を病院からいただき対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の今の状況の説明を行い、施設で出来る限りの事も伝え、家族と話し合いの場を設けている。	入居時、事業所の重度化・看取り指針を説明し、意向確認(口頭)している。重度化や終末期の対応について、その状態になった時点で書面により家族の意思確認を実施しており、協力医・家族・事業所が方針を共有しながら、看取りを行っている。看取り時は、家族の付き添い宿泊も出来るように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを含め、急変した時の対応は看護師に相談して応急手当を実施し身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響で避難訓練等は出来ていない。	年間防災訓練計画を策定しているが、コロナ禍で殆どの災害訓練が未実施である。年度末に総合防災訓練を予定している。緊急連絡網はLINEで職員に周知できるようにしている。水・缶詰・レトルト食・コンロ・シート等を準備している。コロナ禍前は、運営推進会議メンバーの訓練参加をいただいている。	職員が利用者を避難誘導できるように、火災・地震・風水害・噴火等のあらゆる災害を想定した避難訓練を実施することが望まれる。また、地域との協力体制も構築して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、言葉かけには十分注意して、プライバシーを損なわないよう対応している。	一人一人の人格を尊重し、利用者のプライドや自尊心を損ねない言葉かけや対応を心がけている。特にトイレ誘導や入浴の際は、羞恥心等に配慮した言葉かけや対応をしている。書類等は事務室内で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言いやすいよう寄り添い傾聴できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望を伺いながら、その人らしい生活パターンになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確認して、毛染めしたり、カットしたり、その人らしく身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	何が食べたいか聞いたり、一緒に食事を味わい、作り方を教えて頂いたり、楽しい食事になるよう支援している。	手作りを大切に食事を提供している。献立は利用者の意見を反映し、ユニット毎にメニューを変えるよう心がけている。誕生日や季節の行事食（おせち、花見、節句、敬老会等）は、季節感や彩りに配慮し、目でも楽しめ、豪華に感じられるような食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、水分量、食事量を決め、ミキサー食、刻み食にして提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は本人の力に応じた口腔ケアの介助を行っています。就寝時は義歯の消毒も実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう声掛け誘導している。また、紙おむつやリハビリパンツを使用している方は、パットなどで使用量を減らし、経費削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動の声掛けをしたり、手作りヨーグルトを提供したり、できることを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞いたりして、ゆっくり入浴を楽しんでいただいている。	週2回以上、利用者の希望(長湯)や体調を考慮しながら順番を決め、支援している。入浴を好まない利用者には、声かけのタイミングや対応を工夫している。入浴時は会話を大切に、菖蒲湯や柚子湯で入浴を楽しんでいただいている。同性介助も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ、一人ひとり安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を確認し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事を把握し、喜びのある生活を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響でなかなか出かける事が出来ずにいる。家族と自由に出かけられるよう支援したい。	コロナ禍で以前のような外出は自粛しているが、花見や紅葉見学を兼ねてドライブを実施している。また、中庭でお茶をしながら気分転換を図っている。利用者が自宅から持参したい物があるとのことで、家族と出かけた方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況に応じ、事務所で預かったりして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしたり、本人が書いたハガキなどを出したり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう、毎月飾りつけを変えたり、不快の無いよう掃除には注意している。	リビングは床暖房で食事兼用テーブルと畳敷きの腰掛スペースやソファがあり、利用者が思い思いの居場所が選べるようになっている。壁面には、利用者の四季折々の共同作品が飾られている。利用者は、好みの場所で自分の好きな事に勤しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席を変えたり、居室にてテレビを観たり、自由に過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人らしさを出せるよう、置く場所を聞きながら設置し、安心して暮らせる居室にしている。	居室はベッド・クローゼット・洗面台・暖房機・エアコンが備えられている。利用者は、テレビや遺影、家族写真を持ち込み、自分らしい部屋となっている。また、部屋のレイアウトは家族と利用者の意向を反映して行っているが、身体状況等により移動や生活動線を考慮した配置に変更するなど、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れて、自立で出来る事は自分でやれるよう支援している。		